

中米ホンジュラスの斜面災害と JICA ボランティア活動

その 2：ホンジュラスの自然災害

ホンジュラスは北緯 14°に首都のある中米の国です。国土は 112,100 km²の面積を有し、人口は凡そ 800 万人です。日本の面積 377,900 km²と比べると、国土は 1/3 弱の大きさになります。産業は第一次産業が主体で、輸出品目は、コーヒー、バナナ、養殖エビ、および養殖淡水魚が 4 大品目として挙げられます。

ホンジュラスで起こる自然災害は大きく二つあります。河川氾濫による洪水と斜面災害です。これらの災害は豪雨が誘因となります。最初の任地・首都テグシガルパ市は直径 10km 程度の盆地にあり、盆地周辺斜面の表層は、豪雨及び生活排水の浸潤により不安定化しやすい状態となります。1998 年に、ホンジュラスを含めた中米をハリケーン・ミッチが襲い(図 2.1)、ホンジュラスでは、死者約 14,600 人、被災損失額約 38 億 US ドルという甚大な災害を出しました(図 2.2)。このため被災 10 年後までホンジュラスの経済は疲弊し、15 年経過した今でもまだその影響が続いていると思います。

外務省によると、「1998 年、ハリケーン災害の人道援助のため、日本は国際緊急援助隊として初めて自衛隊の医療部隊を派遣。約 4 千人の診察と約 3.3 万平米の防疫を行った。」とあります。

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/honduras/data.html#section6>)

ハリケーン・ミッチによる被災後、JICA ホンジュラス事務所の 2001 年度プロジェクトで、テグシガルパの被災地を調査した結果、被災の大きかった地すべり地区は 17 地区になりました。その内、対策すべき地すべり地は 3 地区になりました。それらは、バンブー地区、レパルト地区、およびベリンチェ地区です。その後、日本政府による無償資金協力による地すべり対策工事が 2011 年 11 月から 2 年間行われ、私の SV 活動期間と重なったおかげで、対策工事現場を地すべりの教育に活かすことができました。対策工事内容は集水井工などの抑制工です。これは、本報告の“その 4”で話します。



図 2.1. ホンジュラスを通過するハリケーン・ミッチの軌道(左 : en.wikipedia.org , 右 : caresantos.com から).



図 2.2. ハリケーン・ミッチによる洪水と地すべり
(1998 年のベリンチェ地すべり、左 : latribuna.hn, 右 : elheraldo.hn から) .